

電子と共に歩んだ人生

岐阜県美濃加茂市伊深町

平田邦治さん

1. 92 歳で現役の平田邦治さん

6 月下旬、初めてお伺いする平田家は、目が覚めるような緑の木々と青々とした野菜畑に囲まれた穏やかな田園風景の一角にある。



ご自宅と畑の様子

令和 2 年 3 月 22 日で満 92 歳を迎えられた平田邦治さんと、5 歳年下で 88 才になられた妻の美和子さんの優しい笑顔に迎えられ、奥の居間に通され、早速、取材を始める。



平田邦治さん・満 92 才

平田邦治さんは電子の技術を岐阜県に初めて導入された 10 人のお仲間のお一人と聞いている。92 歳になられた今でも、毎日、畑や田圃の管理を行い、耕作する田畑には、もみ殻を焼いて炭にして使用していると言う。3 町歩の田圃や 1 町歩の畑には、もみ殻炭 100 k g / 反を撒き、現在でも米、野菜、大豆、小豆、カブラなどを生産している。

また、毎日のお庭の手入れも欠かさない。株式欄に目を通され説明していただいた時もメガネなし（裸眼）で大丈夫とのこと・・・驚きの 92 才である。



今年の田植えの準備・今でもトラクターの運転をされる。

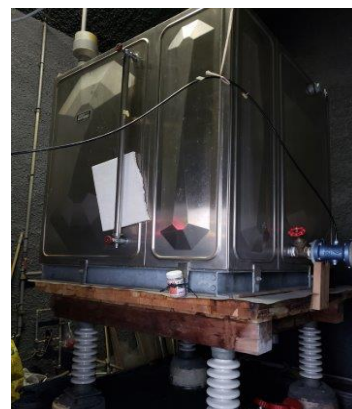
2. お元気な理由をお伺いした

家の前の大きな倉庫に鎮座する 4 トンの電子水製造タンク、とても大きく光り輝いていた。この電子水は飲み水をはじめ、平田家の家中のすべての水回りで使われている。食事用、お風呂用をはじめ、畑の野菜や田圃の稲にも葉面散布を行っている。お庭の庭木や畑の野菜たちがとても生き生きしている理由がわかった。

平田家では全員、毎日欠かさず電子水を飲まれているようだ。ご家族の皆さんの肌艶の良さから見ても・・・納得！

電子水^{*1)}は、「静電三法」の三つの法則の中の一つ・物質変性法の技術を活用して“水分子のクラスターを小さくし”、“味の改善や保湿性の向上”などの効果を併せ持つとされている水だ。

平田さんが 92 歳でこのようにお元気で過ごすことができる“魔法の水”なのかも知れない。

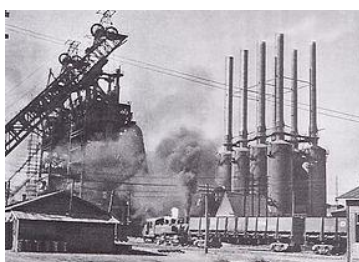


電子水製造器・4 t タンク

3. 邦治さんの戦中、戦後

平田さんは1943年・昭和18年4月（16歳）から昭和21年11月（19歳）の約3年間、北朝鮮の咸鏡北道城津府で銑鋼一貫の製鉄工業の日本高周波鋼業・城津工場に就職した。理由は、太平洋戦争が始まった1941年（昭和16年）以降、金属類回収令：（昭和18年8月12日・勅令第667号）が発動され、日中戦争から太平洋戦争にかけて戦局の激化と物資の不足を補うため、武器生産に必要な金属を回収するための施策として、一般家庭からも鍋、釜から多くの金属製品や仏具のリンなどさえも供出させられた。

その時、平田さんが思ったことは、海軍や陸軍に入ってお国のために尽くすことも大事だが、金属を造る技術を身につけ、お国のために尽くそうと決意し、日本高周波鋼業に就職した。



当時の昭和製鋼所

日本高周波鋼業の製鉄技術は、莫大な設備投資を必要とする高炉法に比べ、安価な費用で実現可能な、国内で産出しない鉄鉱石を使わず砂鉄を原料としてできることなどから当時の日本では注目を集めていた。

そのころ中国の満州・鞍山にあった昭和製鋼所では品位の高い鉄鉱石から鉄を作っていたが、平田さんが就職した北朝鮮の

咸鏡北道城津（現：朝鮮：民主主義人民共和国・咸鏡北道金策市）にあった日本高周波鋼業（日本企業の事業所）では、20～30%以下の低品質の鉄鉱石を原料として、発泡剤を活用して50%以上の鉄鉱石に選鉱する技術を基に鉄製品を作っていました。平田さんはタングステン精錬に入り、3年間、必死でその技術を学んだそうだ。



【高周波電撃精錬法とは】

本製法の特徴は極めて急激な加熱にあり、酸化物である鉄粉と還元作用をもつ炭素との混合物を、数万ボルト、数十万サイクルの高圧高周波数電流をもって加熱し、灼熱炭素と生成した一酸化炭素とで還元させようとするものである。炉は粉鉄専用炉であり、還元剤の配合を調整することによって発生熱の調整を行うことが出来、また加熱が急なため無蓋でも問題ないこと、熔鉄炉に比して低温還元であり不純物の介入が少く還元剤の使用が少量で足りるなどの特徴がある。

終戦後の昭和21年、日本に帰り北朝鮮での鉄を作る技術を活かしたいと考えたが、日本国土は敗戦のため焦土と化し、近隣の製鉄所もほとんど消失しており、日本高周波鋼業での経験を活かす場所を失ってしまった。その当時の日本では富山県、神奈川県にも日本高周波鋼業があったが、平田家では長男で兄の照義さんが戦争捕虜となってロシアのシベリアに抑留され、その後、現地で亡くなったため平田（邦治）さんが平田家の後を継ぐことになった。先祖からの広い田畑をはじめ、広大な山林を受け継ぐことになり、農業に精を出すことを余儀なくされた。

終戦時の1945年（昭和20年）8月9日、ソ連軍が突如朝鮮半島北部へ侵攻し、8月23日には城津に到達した。この頃には北方から避難してきた者も含め五千人余りの日本人がいたが、工場長と幹部はソ連軍に連行された。連行されなかった技師長と工場の若手社員が立ち上がり、ソ連軍や朝鮮人との折衝に苦労を重ねながら日本人世話会として活動するようになった。他地区との連絡や内地（日本）への引き揚げのための間船の手配を行い、彼らの尽力により大きな犠牲を出すことなしに大部分が内地に引き揚げることができた。

4. モラロジーに出会ったきっかけ

平田さんが21歳のころ、長男の兄（照義）は中国にいた。戦争が終われば、やがて兄が日本に帰ってくる。そうなれば自分はここにいない方が良いと思い、友人から青森県の五色沼湖あたりにあった農場に誘われそこに行こうと決心した・・・・・・が、家族全員に反対され断念せざるをえなかった。

その頃、モラロジーに出会った。私たち人間にとって、“思いやりの心を育てること”が何よりも大切であるとの願いと、太陽のような光明（知恵）と温熱（慈悲）とを併せもって、公平無私な態度で万物を育てることができる人間の育成を目標としているモラロジーの教えにのめり込んでいった。親を大事にして、人類の安心、平和、幸福の実現のために生きる教えを学び、貫こうと決心したのだ。

モラロジー研究所は、法学博士（東京帝国大学）・廣池千九郎が1926年に説いた「道德科学」(moral+logy)を基に始まった修養・道德団体である。道德科学「モラロジー」に基づく知徳一体の教育を基本理念とし、心に仁愛の精神を培い、その上に現代の科学、技術、知識を修得させ、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人物を育成する。

戦後の昭和21年～22年頃は、経済が著しく混乱し、食糧不足もピークに達していたため、当地・伊深の方でも着物などを食料に替えるための物々交換が行われていた。名古屋方面から多くの人々が来ていた。平田家にも何人かの人々が来られ、野菜やお米などと交換して帰られる人の姿をよく見かけた。

それから数年後、平田さんが27才、奥様が22才の頃に結婚した。

5. 電子に出会ったきっかけ 妻の病気（心筋梗塞）

電子に出会ったきっかけはモラロジーの関係者からです。モラロジー本部に伊藤先生という方がおられ「愛媛県で電子の農業というものをやっている方達がいて、とても良い農産物を生産していると聞いた。人類の安心、平和、幸福の実現を考える上でも、とても良いことと思う。農業をされているあなた達もやられたらどうですか？」と言われ、前・エレクトロンの代表の井戸勝富さんと一緒に電子を始めることにした。井戸さんとはモラロジーの先輩、後輩の関係だった。



妻の美和子さん



それとほぼ同じ頃だったと思いますが、私が40歳、妻が35才頃、元々血圧が高かった妻・美和子は子供を3人産んだ後も、1年にカイコを3回飼い、麦を刈り、田植えなどの農作業に追われる毎日で、過労のため心筋梗塞になってしまった。1年に2～3回発作を起こすようになり、その都度自転車で遠くの病院迄薬をもらいに行くことが続いた。発作は2年くらい続いたと思います。

そんな時、知り合いの和尚さんと一緒にいた方から“そういう症状は電子の水を飲んだらすぐ治る”といわれ、藁をもつかむ思いで電子水を造る機械を購入して電子水を飲み始めた。しばらくしたら、あれほど苦しんでいた妻の発作が嘘のように無くなった。“これは凄い！”と実感し電子水の効果を信じるようになった。自分や妻が体験してみてその物の良

さは解かりますからね。それから今日まで飲み続けるようになっていた。「毎日必ず4リットルは飲んで
いますよ」・・・元気な笑顔がほころぶ。

それから2年くらい後の頃、日本国内に電子の機械を広めて回っていた内生蔵長一郎さんが“電子水の
講演に来られた。

静電三法の著者・檜崎先生は、戦後の食料不足の中、化学肥料や農薬なしで生産できる農業（植物波
農法）を日本中に講演して回っていた。その勉強会を習志野の自宅付近の農場で開かれた時、農業に係
る方達が多く学びに来られていたという。内生蔵長一郎さんはその勉強会に参加し、熱心に勉強されたと
聞く。その後、檜崎先生の弟子の一人となったようだ。

平田さんは内生蔵長一郎さんから電子水を造る装置の説明を受けた。技術的には、若いころの就職
先・北朝鮮の銑鋼一貫の製鉄工業である日本高周波鋼業で学んでいたことで、その原理は理解できた。
内生蔵長一郎さんは「10名集まればこの電子水を造る装置の取り扱いをさせてあげる」と話されたの
で「電子農業」を設立することにした。

「電子農業」を設立して、3年目に伊勢神宮を訪れた時のことです。二見町にある“御園”には水田
と農場があり、その農場に作付けしてある白菜やキュウリなどのほとんどの野菜は弱々しく、病気で腐
っていたものもあった。“御園”では一般の農家で使う牛糞や鶏糞などが使えないため化学肥料等で野菜
を育てていたため、連作障害に加え、紫モンパ病やうどん粉病などが発生していた。野菜ばかりでなく
果樹等も大変弱り、葉は枯れた状態のものが多くみられたという。



ご神田の田植え奉仕作業

お母さんが岐阜県出身だったという御園の作長・中島昭二様から
「御園の野菜が病気になって困っているが、何とかならないか」と
ご相談がありました。これまでの経験と実績から、これを治すのは
炭素埋設と電子水散布しかないと、炭素埋設40トンと電子水装置
100トンの地下タンクを提案し、“御園”の一町八反ある野菜農園
と3町歩ある水田全体がカバーできる電子水製造装置の導入を3年かけて奉納しました。炭素埋設と電
子水散布を行うことで“御園”の野菜農園や水田は年を追う毎に活性化し、生き活きとした品質の良い
野菜やお米が採れるようになり、お供えの野菜が腐らなくなったと大変喜ばれました。・・・
“御園”は生き返ったのだ。



ご神田の田植え奉仕作業

このご縁を得て、全国の“日本電子物性研究会”の会員の皆様のご協力
を得て、毎年、電子農業で採れた様々な野菜やお米等を伊勢神宮へ奉納
する奉納祭を執り行うことになった。

また、昭和54年には“ご神田”にも炭素埋設を行い、毎年、電子水
散布や田植え奉仕作業を行い、無化学肥料、無農薬の素晴らしいお米を
収穫することができた。

“御園”ではいろいろなことを試した。かぼちゃの種を電子チャージした後にポットに撒き、ある程度生育した苗は、その後、路地に定植する。その際に気づいたことですが、種を電子チャージしたポットの苗の根は、スーパーなどで売っている一般の苗の根とは、ケタ違いのびっくりする程の沢山の根が生えていた。・・・元気な苗の証拠です。その後、茎も生き活きと生長して大きなかぼちゃを沢山収穫したものです。神宮の皆さんに喜ばれましたね。種子チャージを行ったおかげです。

伊勢神宮では、お供え時期に合わせて、時期を決めて野菜の種を撒き、苗を作り、生産する。お供えの野菜などの過剰分は神官の方々の家族にも配られる。神官に勤める家族の奥さんから、炭素埋設をし、電子水散布を行ってから“御園”の野菜の味が大変おいしく激変し、日持ちが良くなりましたと大変喜ばれました。ご神田の田植え奉仕作業は、有志の方々のおかげで現在でも続いている。



キュウリの苗の根の比較

事業として電子農業が始まった頃、平田さんは実家の田植え、稲刈り以外は、岐阜県外の大阪市、広島県、三重県の営業所を回り、これまでの自身の体験から電子水や炭素埋設の素晴らしさを説いて回った。

広島営業所では、素晴らしい出会いがあった。広島の農業試験場にいた辰本さんという方と一緒に仕事をしていた時、辰本さんは職業柄、平田さんの話が本当かどうか自分で実験をしてみたいと言うので、二人で炭と電子水を利用して栽培したキュウリの苗と一般栽培のキュウリの苗の根の比較をした。平田さんはこれまでの経験から解っていたことですが、炭、電子水を利用して栽培したキュウリの根の多さに辰本さんは驚かれた。根が多いということは、野菜が元気に育つという証拠となる。・・・「これは本物ですね！」と、辰本さんの言葉に、なんだか嬉しさが込み上げてきた。

キュウリだけでなく、茄子、トマト、ピーマン等の野菜の苗も実験して比較してみたが、どの苗も同じ傾向を示し、根が驚くほど沢山張り、大きく元気に育った。目の前の野菜の苗を見ても炭、電子水の素晴らしさを再認識し、自分自身のこれまでの経験に基づく信念を確信した。

長年、電子の仕事をされてきて一番辛かったことを伺った。

3人の子供たちを広池学園（モラロジー）に通わす頃、金銭的に一番大変でした。その頃は、月給3万円しかなく、戦死したお兄さんの軍事恩給を使わせてもらっていました。・・・大変でしたね。

その時期を耐えてこられたのは、家内の助けと、何のために生きているのか、何をしたいのかということをも自分自身に問い続け、モラロジーで培った「人類の安心、平和、幸福の実現」のために生き抜く覚悟を決めました。



カタツケ葉

平田家は5代前までは神官であった。京都の下賀茂神社の分社を平田家の先祖がこの地・伊深に持ってきた。平田家の庭には、神社や寺などには必ずあるとされるカタツケ葉（西洋バクチの木）がある。昔は紙が少なく、上級武士の子供達は紙を使って勉強できたが、貧しい家の子供たちは、このカタツケ葉に先のとがった硬い木などで字を書き覚えたといい。カタツケ葉に書いた文字は最初のうちは薄っすらとにじむ程度だが、少し時間がたつとくっきりと黒く浮かび上がる。

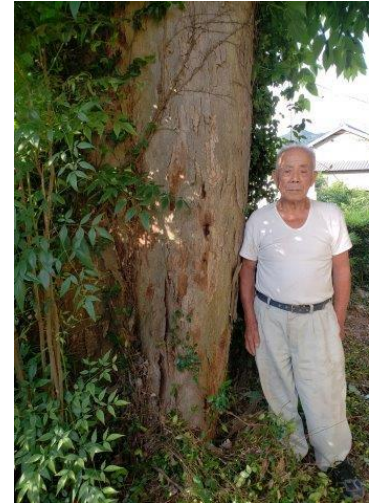
昔の人は知恵と工夫次第でいつでも勉強できる術を既に知っていたのだ。

約 300 年続く平田家の裏側には、大人 2 人が手を繋いでようやく届くほどの樹齢 300 年の“ムクの木”がある。ツルが巻き付き生き活きとした大樹のそばで写真を撮らせていただいた。

300 年間、平田家の歴史を見つめてきた大きな巨木である。

92 才になられた平田さんから、様々なお話を伺う中で、日頃から健康には大変気を付けておられると感じた。

毎日の習慣として電子水を 4 ℓ 飲み、家の前に飼っている美濃古地鶏のとれたての卵を食し、そして青汁の中に足し入れて飲んでいるというケールやクレソンの葉、そして家の周りには健康に良いとされるクルミの木他、ブドウの木、柿の木などいろいろな果物や野菜で一杯である。



樹齢 300 年の“ムクの木”の前で

最後に、“これまでに最も嬉しかったこと”を伺った。
伊勢神宮の“御園”に炭素埋設や電子水散布を実施した後に、野菜や果樹が生き活きと育ち、その後も生育の変化を見せながら、毎年、素晴らしい野菜や果物が沢山採れたという報告を聞くことが何よりも嬉しいですね。・・・その言葉からも他への“思いやりの心”を大切にするモラロジーで培った精神が滲み出る。



美濃古地鶏の産みたての卵

電子水や炭素埋設の素晴らしさを、日本中に説いて回られ、また、ご自分でも生活電子を徹底的に実践され、人類の安心、平和、幸福の実現のために自信の信念を貫き通す平田邦治さん。戦前、戦中、戦後のご苦勞をものともせず乗り越え生き抜いて、電子の普及活動に情熱を傾けて生きて来られた素晴らしい人生の先輩に“乾杯”・・・・・・である。

私もそう在りたいと願いつつ帰宅の途に就いた取材であった。

令和 2 年 6 月 2 0 日取材

檜崎研究所 編集部 大塚啓恵



お庭の御用松の前で



今も現役の 92 歳の邦治さんと 88 歳の美和子さん。大変若々しいお二人のツーショット！



毎日手入れしている家の前
にある野菜（人参）畑で

【編集後記】

編集者も平田さんと同じグループの 1 社・(株)電子物性総合研究所で 15 年間研究開発の部門に所属し、炭素埋設に関する幅広い調査や電子水に関する科学的な解明に取り組んできた。参考までに、これまでに判っている“炭素埋設”及び“電子水”について下記に記述させていただきます。

（１）“炭素埋設”とは

第二部・植物波農法の「大地電位の調整方法」：檜崎皐月理論・「静電三法」より

大地電位を改善、調整する方法

劣勢地点（ケカレチ）における人間や動物の不健康及び植物生育の改善のために、檜崎グループが種実験を行った結果、最も効果的であった方法が炭素質の埋設である。

炭素埋設については様々な業者が、様々な方法を提案しているが、基本は「静電三法」に記述されている内容を元に各々アレンジしたものである。

炭素埋設に必要な基礎知識としては、

- ① 「相似象学」による相似象の見方（高位指向線、低位指向線）
- ② 炭素埋設の方法、効果

まず、①の「相似象学」の相似象の見方（高位指向線、低位指向線）を学び、これまでに相似象学を学ばれた経験豊富な方の指導の下で、さまざまな場所に出向き、山や谷などの地形を観測しながら高位指向線上にある優勢地点や低位指向線の交差する地点・劣勢地点が観測できるようにするとよい。詳しくは静電三法・第 1 部・③ 相似象学（p30～p43）に記載されているので参考にされたい。また、②炭素埋設の方法、効果については第 2 部の植物波農法の「大地電位の調整に係わる技術」（p96～p118）、「大気電位の調整に係わる技術」（p119～131）、「損傷電位の利用に係わる技術」p185～p187）を精読していただき知識を得た上で行うことが肝要である。

炭素埋設とは大地の電位構造を変化させることである。大地に穴を掘り、損傷電位をつくり、電位を

安定化させるために炭素質を埋設する。この手法は局地的な小区域の電位を変えることであり、広範囲の地表面を一変させることは不可能である。

電位を変えることのできる範囲は、炭素埋設地を中心に半径約 15m程度、有効期間は今のところ半永久的といわれているが、埋設した炭素質の経年劣化を考慮する必要がある。

【炭素埋設の設置方法】

- ① 穴の大きさ：直径 1m、深さ 1mの円形の穴
- ② 炭素質：木炭等・底から 30 cmの高さに充填（できるだけ細かい粉末の方が効果が速い）
- ③ 穴の埋め戻し：炭素質の充填後は掘った土で埋め戻しを行う。
- ④ 有効範囲：大地電位構造に変化を及ぼす有効範囲は中心より約半径 15mの円周内
- ⑤ 炭素必要量等：約 300 kg/穴程度（（底部の半径×半径× π ）×30 cm） 静電三法より

（参考図書）

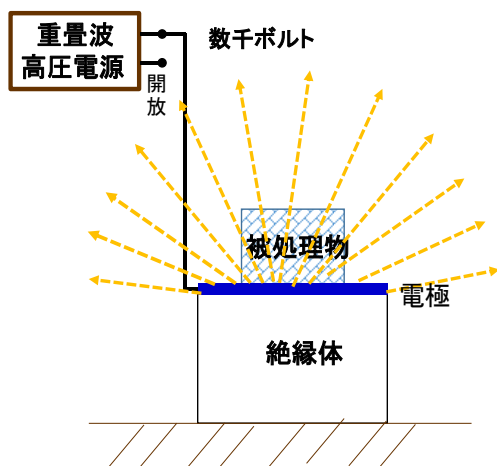
- ① 電子農法の世界 元・筑波大学の橘助教授の論文より
橘先生 資料
- ② 炭素埋設の仕方及び電位傾斜例・リーフレット
炭素埋設

（２）電子水について *1)

第三部・物質変性法の中の用水について

（檜崎皐月理論・「静電三法」より）

電子水の製造方法



静電場処理(静電三法)

無限遠の対極間に電場（電界）が発生する。
（宇宙対向の静電気）

電子水とは

（参考図書）

- ③ 酵素反応が促進する水である。
元・筑波大学の向高教授の論文より
静電場処理水（電子水）による酵素反応促進効果
- ④ 水の分子集団（クラスター）の小さな水である。
故・松下和弘氏の論文より

19. 松下和弘「生命体に調和する水を求めて」電子物性No.47

* 電子水は様々な場面で使用されている。

- 農業での葉面散布に活用
 - ・ 葉面散布により農産物が生き活きと育つ
- 飲料水、調理用、美容に活用
 - ・ 飲み水では体調の好変化に期待できる
 - ・ お料理では素材の味や香りが促進される
 - ・ 美容では保水液として使用されている